



2025 FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP Rd,13-Rd,14 OTG Motorsports REPORT

11月1日 - 2日 (Rd.13-14) 天候：晴れ コース：モビリティリゾートもてぎ

年間6大会14戦で競われている2025年の「FIA F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP (FIA F4選手権)」。

今シーズンは、1大会2レースが4回、1大会3レースが2回の計6大会がSUPER GTの併催カテゴリーとして実施され、すでに第5大会までが終了している。そして、最終戦となる第6大会の第13戦、第14戦がモビリティリゾートもてぎで11月1日(土)、2日(日)に開催された。

OTG MOTORSPORTSの母体となる大阪トヨペットグループは、FIA F4選手権の若手育成という理念に共感し、シリーズの設立当初からスポンサーとして支援。2017年からは自チームを結成していて、60号車には昨年に引き続き6代目のFIA F4 JAPANESE CHALLENGEドライバーとなる熊谷憲太選手、80号車にはKYOJO CUPなどでも活躍する翁長実希選手を起用している。

2年目となる熊谷選手はシーズン中盤から調子を上げていき、第6戦の鈴鹿サーキットから7戦連続で入賞を果たしていて、第8戦では初めて表彰台に登る活躍を見せた。今季を締めくくるモビリティリゾートもてぎ大会でも、上位への進出が期待された。チームメイトとなる翁長選手は、開幕戦の富士スピードウェイやスポーツランドSUGOではトップ10を狙う集団でのバトルができたが、まだポイントを獲得できていない。決勝レースはトップ10内のラップタイムを記録しているので、予選でパフォーマンスを発揮することが課題とされていた。



予選

#60熊谷憲太選手

第13戦／11位／2分00秒804

第14戦／14位／2分01秒871

前戦では金曜日に予選が行なわれたが、今大会は通常通りの土曜日に実施。前日に夕方から関東地方では大雨に見舞われ、1日（土）は天候が回復したが、路面はウェットコンディションでの走行となった。

チャンピオンクラスの予選は、まだ肌寒い8時にスタート。熊谷選手はコースオープンとともに走り始める。コースは全面的に濡れていたため、一部のマシンはコースオフするなど、滑りやすい状況となっていた。熊谷選手は計測4周目に2分7秒台に入ると、翌周には2分5秒台にタイムアップ。各マシンが周回を重ねるごとにコースコンディションは回復していく。ただ完全なドライコンディションだと1分56～57秒台でのラップタイムになるため、乾いた路面とはいえない。計測9周目には2分01秒871をマークし、最終アタックとなった10周目には2分00秒804までタイムを伸ばした。結果は第13戦が11位、第14戦が14位となった。

#80翁長実希選手

第13戦／28位／2分03秒681

第14戦／27位／2分04秒014

路面は濡れていたが20分の予選時間でコンディションが回復することが予想されたため、翁長選手もスリックタイヤでコースに入る。慎重に走行を進めて行くがブレーキバランスが状況と合わずに、コースオフしかかる場面もあった。それでも周回ごとにタイムアップを果たして、計測5周目には2分8秒台をマークする。ただ、トップ10内とのマシンとは差があり、さらにタイムを伸ばす必要があった。計測7周目に2分5秒609をマークし、さらにタイムアップを狙ったが、トラフィックに悩まされてしまう。結果としてベストタイムで競う第13戦は28位、セカンドベストタイムが採用される第14戦は27位となった。



Rd.12

●第13戦 11月1日(土)12時50分スタート

#60熊谷憲太選手

スタート11位、フィニッシュ11位

予選終了から約4時間のインターバルを経て、第13戦の決勝レースが実施された。インディペンデントクラスを含めた45台がフォーメーションラップを終えてグリッドについたが、シグナルの不具合によってスタートが遅れることになった。13週の決勝レースは1周が減算され12周で競われ、予定より5分ほど遅れた13時00分にスタートした。

11番手からスタートした熊谷選手は順調に1コーナーを通過し、1周目のコントロールラインを10番手で通過。2周目に入るとコースオフしたマシンを回収するためにセーフティカーが導入される。この間にトップ10内を走っていたマシンがピットに戻ったために、熊谷選手は9番手に浮上。レースは5周目に再開され、さらに上位を目指す。しかし、ラップタイムがライバル勢よりも劣っていて、中盤以降はテールトゥノーズで迫られる。11周目までポジションを守っていたが、5コーナーで並び掛けられ、その後のS字までに2台にパスされる。その後も1台にパスされ12番手に後退。ファイナルラップまで先行車を追ったものの、12位でチェッカーを受けた。正式結果では先着したマシンにペナルティ与えられて11位となった。

#80翁長実希選手

スタート28位、フィニッシュ22位

28番手からスタートした翁長選手は、前のマシンのアクシデントなどによってオープニングラップを26番手で通過する。2周目から4周目の終了までセーフティカーランとなり、5周目にリスタートすると、着実にポジションを上げていく。5周目に1台、8周目に1台、さらに9周目にも1台をパスして22番手まで順位を上げる。終盤も先行するマシンの背後でプレッシャーを掛け続けて、12周目に22位でフィニッシュ。

10周目には9番手相当となる1分59秒332の自己ベストタイムをマークしていて、トップ10内を走るマシンと遜色ないパフォーマンスを持っていることを示した。



Rd.13

●第14戦 11月2日(日)8時25分スタート

#60熊谷憲太選手

スタート14位、フィニッシュ18位

2025年シーズンを締めくくる第14戦は、11月2日(日)の早朝から開始された。長袖を羽織るだけでは肌寒い気候だったが、最終戦を見届けるために多くの関係者やファンがグリッドに駆け付けた。

8時25分になるとフォーメーションラップが始まり、45台のマシンがスタートを切った。14番手からスタートした熊谷選手は、1つポジションを下げてオープニングラップを終える。2周目には挽回して2台をパスしたが、コースオフしたマシンを回収するためにセーフティカーが導入され、4周終了までセーフティカーランが続いた。レースが再開すると1台をパスして12番手となりポイント圏内が見えていたが、7周目のバックストレートから90度コーナーで接触されて19番手まで後退してしまう。10周目には自己ベストタイムの1分58秒684をマークして先行している集団を追ったが、ポジションを上げることはできず13周目に18位でチェッカーを受けた。第6戦以降は着実にポイントを積み重ねていたため、今大会の結果は悔やまれるが、2年目のシーズンをポイントランキング9位で終えた。

#80翁長実希選手

スタート27位、フィニッシュ23位

27番グリッドに並んだ翁長選手は、スタートで1台に先行されるが別のマシンを抜きポジションを維持して1周目を終える。2周目の前半に1ポジション上げると、その後はセーフティカーランとなり、5周目にレースが再開する。第13戦と同様に決勝レースでのペースは良く、着実に1台ずつパスしていき8周目には25番手に浮上。先行するマシンと離れている状況だと好タイムで周回ができ、12周目には自己ベストタイムの1分58秒794をマークした。結果的に13周目に23位でゴールし、FIA F4選手権での1年目のシーズンを終えた。

ドライバーコメント

#60熊谷憲太選手



レースウィークの初日となった30日(木)の走行は良い感触で走れました。5番手だったのですが、トップとの差は0.6秒ほどあったので、足りないところを見つける必要がありました。セットアップや走らせ方を変えて臨んだ翌日の練習走行は、路面コンディションの変化があって順位としてはほぼ変わりませんでしたがタイム差が開いてしまいました。

予選は路面が濡れているところをスリックタイヤでアタックしたため、コンディションが回復していく最後のアタックが勝負だと考えていました。しかし、最後の10周目は上手くまとまりましたが、9周目はミスがあってタイムを伸ばせませんでした。

第13戦は課題のスタートでポジションを守り、その後はポイント圏内を走っていました。ただ、ペースが悪く後続に迫られ、ポジションを下げてしまったのが悔やまれます。駆け引きの面でも弱さがあり、考え直さないといけないと思っています。第14戦もペースで負けていて、接触もあり順位を落してしまいました。

2年目のシーズンは昨年に比べて着実に進歩できたと思います。とくにスポーツランドSUGO戦以降はポイントを積み重ねられ、自信が付きました。チームの皆さんやコーチをしてもらった伊東黎明選手にはさまざまなことを教ったので、今後にしっかりと活かして、レース活動を行ってみたいです。

#80翁長実希選手



モビリティリゾートもてぎでF4を走らせるのはレースウィークが初めてだったので、練習走行の初日はタイム差がありました。それでもチームからのアドバイスや熊谷選手との比較で2日目にはタイムアップできました。ここ数戦はペースが良かったものの、予選でパフォーマンスが発揮できなかったのとくに集中して臨みました。しかし、難しいコンディションとなったことや、ブレーキバランスの調整が上手くいかなかったこと、タイムが伸ばせる終盤のタイミングでクリアが取れなかったことにより後方の順位になってしまいました。

第13戦、第14戦ともに決勝レースでのペースは良く、とくに第13戦では9番手相当のラップタイムでした。それもあり、4台をパスすることができました。やはり予選で下位になったことが悔やまれます。それでも、荒れたレースの中で2戦ともにマシンを壊すことなくチェッカーを受けられたことは良かったです。

今季からFIA F4選手権に参戦させてもらい、開幕戦の富士スピードウェイではポイント圏内が見える位置でレースができました。ただ、その後は失速してしまい、シーズン後半で再び良い感触を取り戻せました。決勝レースでのペースは良いので、やはり予選の結果が課題になります。反省点は明確なので、この経験を次のステップで活かせればと考えています。